

ひよし川柳会

ケイタイは買ってはみたが不携帯

川添 忠昭

養いに苦勞するけどまた楽し

松本 立子

柚子取りに養生したい足や腰

宇津本アヤ子

あの至福扶養家族の多い時期

熊本 忠真

猪の養い親という農家

渡辺 光男

温泉で静養しようとの子の招き

山本 雅之

ケイタイが娘から届いた誕生日

上田タケミ

巣立したばかりおろおろしてる雛

栗木 一郎

詐欺に合うおろおろ実はお金持

若宮 賢敬

教養のセンスが光る友の知恵

米子 達雄

ケイタイへ少し背伸をしたメール

宮川 柳酔

ケイタイで命を拾う山の事故

金子すすむ

何かあるおろおろ声の電話口

男武志津江

気休めになればと愚痴を聞いてあげ

村上よしこ

天と地のとけ合ふ連峰冬の景

大川 眺春

ウインカー倒して秋めく城下町

毛利 敦

幼な等と遊ぶ小春やジャンケンボン

小西 あや

一輛車乗ればゆったり秋の野へ

梶原 一美

吟行や秋の一と日を使いきり

松岡 寛孝

一陣の風の迷ひし刈田かな

伊藤 京

秋の夜の交番灯の白きこと

高橋 妙

時雨雲一山のみに陽の照りて

福本 恵子

住き友を得て小春日の旅愉し

浜田 千鶴

集落をはさみて尾根は雪を置き

増田とみ子

墓塚の香に深呼吸二度三度

松浦 亀

尾根添ひに紅葉続くやバス登坂

高田 弘子

あいさつを遠慮しますと十二月

藤田 光子

詠みたくて詠みきれぬ景紅葉山

芝 都留

愛媛若葉ひろみ句会

鬼北の足跡を辿る…【第5回】

河内神社の大杉よ、永遠に…

先の広報でお伝えしておりました下大野・河内神社の大杉ですが、住民たちの願いもむなしく、ついに枯死してしまいました。数年前から樹勢の衰えが目立ち始め、樹木医の協力を得ながら樹勢回復のための治療を続けておりましたが、地元住民の大杉への願いはついに届きませんでした。

大杉の枯れが始めた頃、折しも県内外の神木への「薬剤注入事件」が取り沙汰されていましたが、樹木医をはじめとする専門家の調査で、「明らかに薬剤注入による枯れとは違う」と判定されていました。しかし、枯れは進行を続け、所々わずかに残った緑の杉葉も、この夏ついに茶色に変わり、

樹木医とも協議した結果、「こうなると、もはや回復は不可能」との結論に至りました。「何百年もこの地を見守ってくれた大杉がないなってしまうのはさみしいのう…」住民たちの間では、こうした落胆の音が聞かれます。今後は、枯れた杉枝が落下し、直下にある社殿が破損する恐れがあるため、地元総代では伐採の準備を進めています。それと併せて、何らかの形で大杉の痕跡を残せないか検討されています。

神社の境内にそびえる「雄姿」を見ることはもうできませんが、大杉にまつわる多くの思い出は、いつまでも人々に語り継がれていくことを願っています。



河内神社にそびえる大杉の最期の雄姿